

GAP Japan 2016

—日本のGAPの今が分かる—

<開催概要>

主催：日本GAP協会 共催：アジアGAP総合研究所

日時：2016年7月27日水曜日 13:00～17:30

場所：東京大学 弥生講堂(東京都文京区弥生1-1-1東京大学農学部内)

後援：農林水産省、日本政策金融公庫、日本農業普及学会、日本フードシステム学会、世界緑茶協会、全国茶生産団体連合会、全国農業会議所、全国農業改良普及支援協会、全国肥料商連合会、日本茶業中央会、日本適合性認定協会、日本農業法人協会、日本プロ農業総合支援機構、日本料理アカデミー、野村アグリプランニング&アドバイザー

協賛：アグリコミュニケーションズ、アグリフューチャー・ジャパン、小泉商事、JA北魚沼GAP部会、JA三井リース、住友化学、つくば分析センター、日本能率協会、ノルメインサム、ベジテック、まるせい果樹園



<プログラム>

■オープニング

- (1)「JGAPの今とこれから —日本発の国際規格を目指して—」 日本GAP協会理事会
- (2)対談「2020東京オリンピック・パラリンピック 持続可能な日本産農産物で「おもてなし」できるか?」
武田泰明 日本産推進協議会事務局、認定NPO法人アジアGAP総合研究所 専務理事
崎田裕子 ジャーナリスト・環境カウンセラー、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長

■基調講演：直接支払制度とGAPの連携による美しい村づくりに向けて

農村が地域として「元気」になるためには、地域全体の景観や環境を一層良くすることが必要であり、それはインバウンドの促進にもつながるはずです。そのためにはGAPの取組みが地域で共有され、それに環境直接支払制度が組み合わされる必要があるのではないのでしょうか。昨年の議論を実践的な見地から深めていきたいと思います。

講演 1:日本ならではのGAPの新たな可能性—環境支払いとGAPの補完的運用による「農村ブランド」の確立に向けて—
莊林幹太郎 学習院女子大学国際文化交流学部 教授、日本GAP協会 代表理事

講演 2:滋賀県におけるGAPと環境直接支払による農業・農村の活性化—琵琶湖と共生する農業・農村を目指して—
森野真 滋賀県農政水産部 食のブランド推進課 参事

■話題提供

「洗わないでも食べられる植物工場野菜の可能性と新たな認証制度の必要性」 アジアGAP総合研究所

植物工場における野菜の生産が盛んになってきています。その大きな特徴である「洗わないでも食べられる植物工場野菜」の問題点と解決策の提案をします。

■GAP普及大賞 2016 表彰式と受賞者の記念講演

GAP普及大賞とは、「最もGAP普及に貢献した取組事例を表彰するもの」です。

受賞事例 ■流通企業と全国の若手農業経営者のGAP普及に向けた取り組み

<受賞者>株式会社ローソンとローソンファーム社長会

■農業者とJAの両方の負担を軽減したGAP団体導入の取り組み

<受賞者>JAおおいたGAP研究会

選考委員 莊林幹太郎 学習院女子大学国際文化交流学部 教授、日本GAP協会 代表理事

岩元明久 日本農業普及学会 副会長

伊與田竜 北海道網走農業改良普及センター 主任普及指導員(農業革新支援専門員)



■GAPを活用している人たちのトークセッション

生産者、バイヤー、普及指導員、それぞれの立場から、GAPの活用方法について語り合います。

パネラー 前田淳 株式会社ローソン 執行役員 商品本部 副本部長

山田敏之 こと京都株式会社 代表取締役

小池甲 新潟県三条地域振興局 農業振興部企画振興課 主査

遠藤誠司 日本コカ・コーラ株式会社 調達本部農産品原料部 部長

モデレーター 武田泰明 認定NPO法人アジアGAP総合研究所 専務理事

日本農業の応援団

JGAP

一般財団法人日本GAP協会

東京都千代田区紀尾井町3番29号 日本農業研究所ビル4階

TEL: 03-5215-1112 FAX: 03-5215-1113 <http://jgap.jp>